

poco a poco

パラグアイ便り 2024/07/01 Número17

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【学校のイベントに出店しました！】

配属先で『San Juan (サン・フアン)』という名のイベントが行われました。伝統的な食べ物を食べたり、伝統的な遊びをしたりするなどして、大人も子どもも楽しむイベントであると聞いています。児童がパラグアイダンスや劇を披露したり、保護者が食べ物を作って売ったりするなどして、大人も子どももみんなで楽しみました。あちらこちらから食べ物の良い匂いが充満し、にぎやかな音楽が響き渡る“どこか懐かしさを感じる日本の夏祭り”のような雰囲気でした。保護者の方々にもすっかり顔と名前を覚えていただいております『Kasumiの分は特別に美味しく作ってあげるからね！』などと声をかけてもらい、大変嬉しく感じました。

そのイベントで、私も同僚と『くじ引きコーナー』を出店しました。出店の目的は、もちろん子どもたちに楽しんでもらうためもありますが、売上金を教材費に充てるためでした。各クラスの売上は施設の運営費や教材費、学習プリントの印刷代、次のイベント等に使用されます。こうした大きなイベントが行われる前には、校内で参加費が必要なビンゴ大会（ビンゴすると景品ではなく賞金が貰えます）を開催して、イベントの開催費を用意することもよく行われます。パラグアイの教員は副業が可能です。商売上手な同僚から、お客さんをたくさん集める術、ゲームを盛り上げる術、売上を伸ばす術など、多くのことを学びました。言葉巧みに盛り上げ利益を優先して商売しようとする面もあれば、参加費やルールなどを参加者によって柔軟に変える面もあるところが、いかにも人間味に溢れていて、そんなところに“パラグアイらしさ”を感じ、面白いなあ、愛しいなあと感じました。



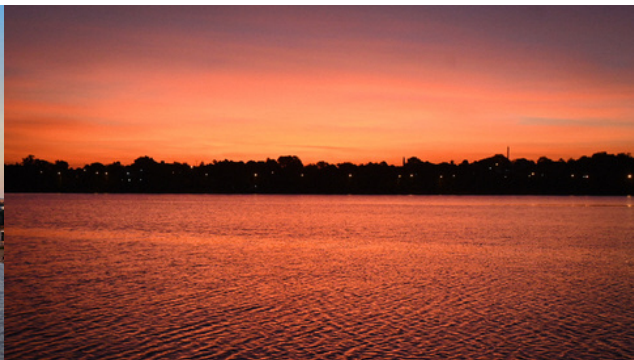
【パラグアイのリゾート地へ】

首都アスンシオンから長距離バスに7時間ほど揺られると“エンカルナシオン”（パラグアイのリゾート地と言われています）に到着します。川を挟んだ向かいにはアルゼンチンの近代的なビルが建ち並ぶ町並みが見えます。川辺には人工ビーチが広がり、カフェやバーでゆっくりと過ごしたり、ベットとの散歩やビーチバレー等を楽しんだりする人々を見ることができます。島国で育った自分としては海辺ではなく川辺に砂浜が広がっていることに違和感しかありませんでした。しかし海無し県で育った自分としては海や砂浜に憧れる気持ちはよく理解でき、人工ビーチを作ろうとしたパラグアイの人たちに共感できる気がします。日々の喧騒から離れ、美しい夕焼けに癒やされ心が満たされました。

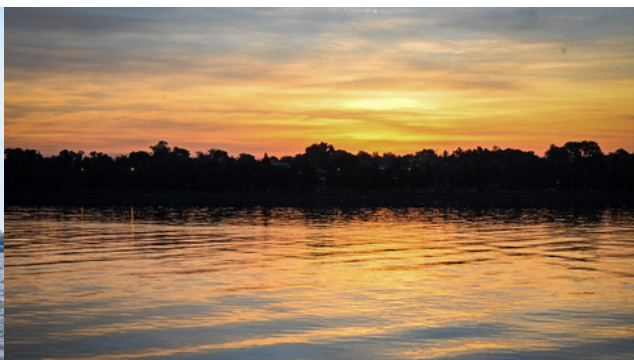


↑パラグアイ

↓アルゼンチン



美しい夕焼け



【ひとこと】

今月パラグアイで過ごす2度目の誕生日を迎えました。パラグアイでは誕生日パーティーを行う場合、主役の人（誕生日の人）がパーティー会場のデコレーションや食べ物、お土産を用意し、招待します。今年の誕生日は平日であったこともあり、パーティーなどは企画せず、一番気心が知れた大好きな家族たちとのんびり過ごしました。いつもと変わらない何気ない会話を楽しみながら過ごす時間に、最高の幸せを感じました。良い意味で特別感やお客様感は全く無く、私もすっかり家族の一員として“一緒にいて当たり前”と思えます。何か困ったことがあってもなくても、家族と一緒にいると安心できます。お母さんやお姉さんや叔母さんに愛情たっぷりの冗談でからかわれ、お父さんやお兄さんや叔父さんに家の修繕を手伝ってもら。可愛い弟や妹と身体を張って全力で遊び、成長に感動させてもら。何よりもパラグアイで一番大切なものは大好きな家族だと胸を張って言えます。素敵な縁に恵まれていること、とても幸せだと感じています。

